

Vol.82

2010年 11月号

ぐらぶあ

ふみだそう、福祉でまちづくり

御柱もいよいよ フィナーレ

小泉諏訪神社 小宮祭

賑やかに盛り上がった
一年でした



皆で声をそろえて頑張ったよ



次世代を担う頼もしい若者衆 ヨイヤサー



十月五日、豊平小学校下古田分校（昭和四十一年廃校）の三、四年生担任の恩師、平岡（旧姓）明子先生を、大阪の富田林市の自宅に訪ねた。実に五十三年ぶり。分校の同僚の先生により住所がわかり、今年の三月に電話で近況報告する。

分校時代の思い出を語り合っているうちに先生は、自分史を話し始める。教員時代、両親兄弟のこと、ご主人との出会い、長男の誕生は難産、二度の大腸の手術、治療中、薬により視力を失う。「正俊君（私の旧名）大きくなったわねー」およその輪郭が分かる位の視力。目が不自由にもかかわらず故郷の富士見に毎年訪れている。デパートに出掛けた時に、ご主人や息子さんの袖と間違えて他人の袖を引っ張り声をかけたこと、「清水寺の障害者用のトイレは有料でお金を取るの」と、名所めぐりの思い出を明るく笑顔で話す。話の合間に「やさしい主人なの」「家事は全部やっていたくの」「私より主人に長生きしてほしいの」の言葉が再三再四。

帰途の車中、先生ご夫妻（共に八十歳）は、深い愛情と信頼の絆で結ばれ安心と安らぎの人生と感銘。

門まで見送ってくれ、別れの握手。その力強くやさしい手の温もりの感触が今も残っている。



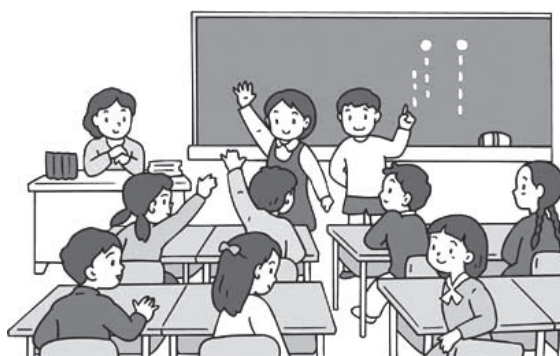
「いのちを見つめる心を育てる」 ～東浦町立片葩小学校 5年生の実践～

前号で8月に行われた福祉教育・ボランティア学習研修会の報告を行いました。今号では、シンポジウムの中で紹介された東浦町立片葩小学校（愛知県）5年生の実践（平成3年の取り組み）をご紹介します。

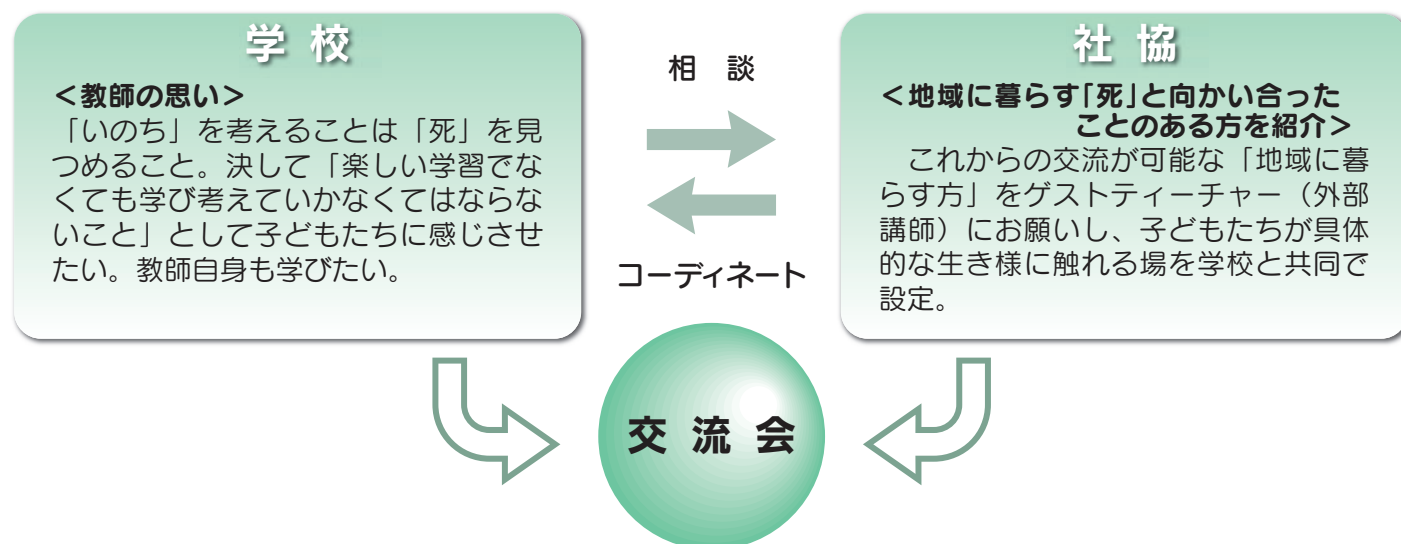
東浦町立片葩小学校の紹介

片葩小学校では、「いのちの大切さ」の視点から1～6年生の各学年で「ふくし（ふだんのくらしのしあわせ）教育」についてキーワードを設定し実践しています。とくに総合や道徳の授業の中でのみ取り上げられそうな視点ですが、国語や社会、音楽など様々な教科の中で貫かれています。

また、学校が重視する福祉教育の課題に対して、町社協が地域の情報（人材・団体・施設など）を提供およびコーディネートし、地域に暮らす人たちが年間200人以上ゲストティーチャーとして関わっていきます。まさに、学校・地域・社協が共同して実践を展開しています。



5年生のキーワード「いのち」



＜「今を懸命に生きる方」との出会い＞

人工透析で命をつなぐ方（3人）、交通事故で生死の境をさまよい今は義足の方（1人）、重度障害で生まれ施設で暮らす方（2人）、障害が確実に進行していく方（1人）、転落事故で体と言葉の自由を奪われた方（1人）とその奥さん。外部講師一人に対して子ども約10人のグループで交流。

1回目の交流会では、子どもたちからの質問や外部講師からのメッセージを中心に、2回目からは、子どもたち自身が交流会を企画。外部講師の方の趣味である「切り絵」を教えてもらったり、リハビリの様子を見せてもらったりもした。

交流後は、単発的な行事に終わらせないために、「ふりかえり」と「わかちあい」を大切にしたい。

交流前と後で、各自どんなふうに変ったのかを考え（「ふりかえり」）それを発表し合いまとめる（「わかちあい」）ことで、交流前の「いのち」に対して子どもたちが持っていた「大切なもの」というイメージは、交流後更に「支え合うもの」「前向きに生きること」という広がりをみせた。

また、障害を持つ方を支える家族の言葉を道徳の教材として取り上げ、かけがえのない命について子どもたちと考えを深めた。

6年生になって…

＜交流後のそれから＞

6年生の国語の授業では、「〇〇さんにとって住みよい町になるためにどんな施設やものがあるとよいか考えよう」を題材に「ともに生きる町」にするためのサミットを開催。その他、外部講師へ自主制作の「片葩っ子新聞」を定期的に届けたり、日常的な交流を行うようになった。

また、5年生のときに交流会の中で教えてもらった「切り絵」を卒業制作で行い、卒業式にも外部講師の方を招待した。

取り組みを通して（片葩小学校前教頭）

継続した活動によって、子どもは障がいをもつ方に対して、一人の人間として接するようになっていく。これは、いくら教えても教えられるものではない。いろいろな人と交流をもち、その人の温かさを知ることが子どもたちには本当に必要なことである。それを学校が理解すれば、自ずと福祉教育の必要性がわかってくる。

参加者の声

・「ふだんのくらしのしあわせ」⇒「ふくし教育」を自分の学校でも推進していきたいと思えます。「教師の姿勢と地域の目」「大人の後ろ姿を見せること」等、目の前の子ども達を育てていく上で大切だと改めて感じました。

・ここ数日、学校は「子どものため」にあるのではなく、将来の社会を担うための子どもたちを育てるため、社会のためにあるという話を耳にする機会が多かったです。本当にそうだな…と今日も改めて感じました。子どもの心を育むことは地域の心を育むことにつながる。そういった実践を見せていただけて、たくさんのヒントをいただきました。「自分でも何かできそうだ」「やってみよう」そんな気持ちになりました。

・今日の事例をお聞きして、学校、地域、社会が連携する教育が、子ども達にとってかけがえのない学びになることを実感しました。日頃、道徳や人権教育を行っている中で、どうしてもわべだけの学び、概念だけの学びになってしまうように思います。社会、地域の方にも子ども達の学びに加わってもらい、協力してもらうことで直接その方に会い、話を聞く姿や様子を見る事が出来、それこそが子ども達にとって生きていく学びになるように思いました。

・担任が後ろ姿を見せられるようなかわりを大事に授業を計画していく必要があるのかなと思いました。人としてどう感じ、考えるのか⇒答えを子どもたちと考えていきたいと思いました。

研修会を通して

片葩小学校の5年生は実践をととして自分のいのちの大切さ、人のいのちも同じように大切ということに気づきました。そして障害を持っても懸命に生きる姿を見て自分たちに何が出来るかを考えるようになりました。

虐待で自分の子どもを死なせる親がいる現在、大人としての意識を問い直すとともに福祉教育を実のあるものにしていくために家庭、学校、社協、地域が一緒になって取り組むことが大切です。明日の地域を担う子どもたちのために今、大人がどれだけ本気になれるかが問われているのではないのでしょうか。

社協会費にご協力いただきありがとうございました。

平成22年度社協会費の納入に多くの市民の皆さまからご協力をいただきありがとうございました。また、区・自治会関係者の皆さまには、会費の納入にあたりご協力をいただきありがとうございました。

社協会費は、年会費でお願いしておりますので、まだご協力いただいていない皆様には、ぜひご協力をお願いいたします。《納入先：各地区コミュニティセンター又は、茅野市社会福祉協議会までお願いします。ご連絡いただければ、お伺いいたします。》

総額 10,517,144円
件数 9,510件 (9月30日現在)

(内訳) 普通会費 8,641,144円 (8,751件) 賛助会費 1,026,000円 (513件)
特別会費 850,000円 (246件)

社協会費は、介護者の方々のいこいの集い・障害者のみなさんの希望の旅・シャララほっとサービス・やらざあの発行・社会福祉大会の開催・ボランティア活動の支援など、社協の様々な地域福祉活動に大切に使わせていただきます。



気分を変えてリフレッシュ

希望の旅

10月5日(火) 在宅で生活されている障害者の方と介護者の方が、ボランティアさんの協力を得て「上高地」と「乗鞍スカイライン」へ行ってきました。

参加者の声

- ・初めての参加でしたが、来るまではとても心配でしたが周りの皆さん、付き添いの方々の細かい気遣いなど安心できました。
- ・今回参加して私でも出掛ける事ができるという事がわかり元気が出ました。出来たら来年も参加したいと思います。ありがとうございました。



介護者いこいの集い

10月8日(金) 在宅で介護をしている皆さんが日頃のつかれを癒すために、高橋まゆみ人形館と小布施の散策を楽しみました。



参加者の声

- ・最高でした。一度見たかった高橋まゆみ人形館。小布施の栗御膳。車中で仲間と介護の話(グチ?)もはずみストレス解消。少々強行軍だったかな。
- ・介護のみで、かごの鳥状況にあり、“いこいの集い”の参加で外出できることで大いに気持が変えられる。“いこいの集い”への参加が唯一の楽しみとストレスの解消になる。

中大塩地区福祉活動

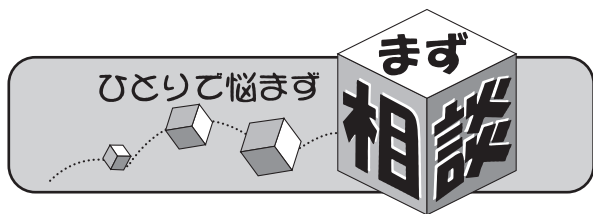
中大塩地区健康福祉まつり

10月17日(日)に行われた中大塩地区健康福祉まつりでは、悪徳商法の講演会やポール・ウォーキングの講習会などが行われました。
ポール・ウォーキング講習会

参加者の声

- ・自分の足腰を考えて、無理のない歩き方を教わってよかった。早速ポールを購入し、歩いてみたい。
- ・ポール・ウォーキングは足腰に負担が少ないうえに、消費エネルギーも多いということで、楽しみながら歩くことができた。





人生には様々な悩みがあります。だれにも相談できない、どこに相談したらよいかわからない。そんなときは、まず社協にお電話ください。

心配ごと相談

どんなことでもご相談ください

毎週金曜日 午前9時～正午

相談員：心配ごと相談員

心の悩み相談には、事前の予約が必要です。

(カウンセラー、精神保健福祉士が対応)

結婚相談

結婚を望まれる方の相談窓口

毎月第1・3土曜日

午後1時～午後4時

第2・4金曜日

午後6時30分～午後8時30分

相談員：結婚相談員

司法書士の法律相談（予約制）

身近な法律に関する相談

毎月第2水曜日 午後3時～午後5時

相談員：司法書士 予約電話／73-4431

あなたと家族の悩み相談 ～家族のサポートライン～

ご家族を亡くされた方、病気に直面されている方
ご相談ください

毎月第1・3月曜日 午後2時～午後4時

相談員：ボランティア

直通電話／82-0400

福祉やボランティアについての相談

月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時30分

電話／73-4431 FAX／73-8030

相談は、総合福祉センター3階の相談室
または1階の社協事務所までお越しください

社協情報紙 **やらざあ** Vol.82
2010年 11月号

2010年11月1日

発行／社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会

編集／やらざあ編集委員会

〒391-0002 茅野市塚原2-5-45

TEL (0266) 73-4431

FAX (0266) 73-8030

URL: <http://sharara.or.jp>

E-mail: support@sharara.or.jp

読者の声

・毎月のクイズはとても楽しみです。脳トレにいいですね。今回は鱈で「さわら」と読むことを知りました。人生60年生きて来てても知らない事だらけです。（ちょっと恥ずかしいですが～）

玉川 60代

・『やらざあ』は地域に密着した情報紙で身近な話題で親しみやすいです。県外から来られている人も多いので、方言特集も取りあげて欲しいです。

玉川 50代 女性

・やらざあ81号は、大変充実した内容だと思います。一面、泉野小、湖東小の「福祉教室」の子どもたちの表情のなごやかさに感動。

・愛知県片葩小の、さらに進展した「いのちの大切さ」に重点をおく実践を研修会を通して紹介した記事には、目を開かされました。

塚原 70代 男性

・孫の祖父母参観に、お寄られして中村美恵子先生の講演をお聞きして、とても良いお話を聞かせて頂きました。『育てる喜び、介護するのも子育てするのも同じ』子供の成長って素晴らしいですね。ちゃんと集団生活が出来るんですね。

宮川 60代 女性

今月は クイズ 保健福祉サービスセンター わかるかな？



茅野市内には4つの保健福祉サービスセンターがあります。
○の中に入る文字はそれぞれ何でしょう。

1. 北山地区 湖東地区
○部保健福祉サービスセンター
2. 宮川地区 金沢地区
○部保健福祉サービスセンター
3. ちの地区 米沢地区 中大塩地区
○部保健福祉サービスセンター
4. 玉川地区 豊平地区 泉野地区
○部保健福祉サービスセンター

応募要領

クイズの答え、住所、氏名、年齢（年代）、電話番号に社協へのご意見、ご要望、やらざあのご感想、つぶやきなど一言添えて社協までお送り下さい。正解者の中から抽選で3名の方に図書カードを差し上げます。

応募締め切り

11月末日

前回のクイズの答え

①鱈 ②榎 ③萩 ④終

当選者

守本さえこさん（玉川） 赤羽晴子さん（中大塩）

伊藤さきみ子さん（宮川）

当選された方には図書カードをお送りいたします。たくさんのご応募ありがとうございます。



社協情報紙 **やらざあ** の発行にはみなさんの会費が使われています。